

宮坂建設工業(株) (帯広、宮坂寿文社長) は十一日、札幌サンプラザで講演会を開催した。評論家の森田実氏(写真)が「戦後七十年と安倍政権の課題」と題して講演し、同社役員、関連協力業者ら約三百五十人が会場に詰めかけ、熱心に耳を傾けた。

はじめに主催者を代表して札幌支店の佐々木勝幸常務執行役員支店長があいさつ。「当社は大正十一年創業であり、その歴史の大半を戦後の復興・発展とともに歩んできた。そんな意味からも今後の国の政策、特に、地方創生など地方が抱える課題の中で北海道経済がどのように進んでいくの

かなど建設業界にとって有意義な内容になっている」と期待を寄せた。

講演会では、森田氏が経済政策の革命など時代の流れや歴史を振り返った上で「世の中で一番大切なのは雇用」と強調し「人々が安定

の力を使って公共事業をおこし、雇用を支えるべき」とイギリスの経済学者ケインズの考えを主張した。

また、「社会は、自然と人間がつくることによって成り立っている。人間が一つの活気を与えはじめて

きたことについて「災害から社会を守るためには、社会資本の整備が必要」と話

また、社会資本が老朽化していることを説明した。

り立っている。東京で成り立っているわけではない。地方の経済をつぶさに見れば地方にてこ入れしないとやっていけない」と国が抱える課題を説明し、戦後七十年のことがあらゆる意味で大きな変わり目の年になるだろうと期待した。

なお同社では、七月二十一日に毎年恒例の「時局講演会を開催する。今回は、元最高裁判所判事の横田尤孝氏を講師に迎える。京王プラザホテル札幌で午後六時開演。入場無料(申込不要)で、一般市民の参加も広く呼びかけている。

公共事業で雇用支えよ

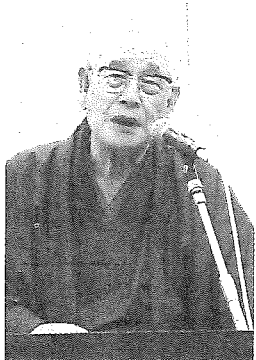
評論家・森田実氏が講演

社会資本の更新、整備を

建設業 宮坂建設工業

した働く場所をもち、自分の生き甲斐を働く場所を通して全うし、仕事を通して社会とつながり、自己研鑽を怠らぬ、災害に対する対策を行なうことが社会の発展に一番健全と持論を述べた。

また、社会資本が老朽化している国は先進国から発展途上国化するなどと日本の置かれている状況にふれ、「国は地方の集積で成



森田実氏(写真)が講演中。

森田実氏招き講演会を開催

宮坂建設工業札幌支店

「公共事業必要論」や「建設産業復興論 建設業の再生が日本経済を救う」などの著作がある評論家の森田実氏を招き、講演会を開いた。写真。



森田実氏(写真)が講演中。

森田氏は「戦後70年と安倍政権の課題」と題して講演。ケインズ経済学の理論や国際情勢などを交えながら、社会は自然と人間がつくるもので成り立ち、人間のつくったものは常に更新していかなくてはならないなどと公共事業の必要性を説いた。

例年通りの時局講演会は、元最高裁判所判事の横田尤孝氏を講師に、京王プラザホテル札幌で7月22日に開催する予定となっている。